

会議名称	平成26年度 第1回倉吉市国民健康保険運営協議会	
開催日時	平成26年7月31日(月) 午後1時30分～2時30分	
開催場所	倉吉市役所 大会議室	
内 容	1 報告事項 (1) 倉吉市国保事業概要について (2) 平成25年度国保事業決算について (3) 平成26年度国保事業について	
出席者	○出席委員14名(欠席委員2名)…過半数の出席により、会議は成立。 〈出席委員〉 廣戸委員、宍戸委員、山口委員、池谷委員、松田委員、野田委員、福嶋委員、 桑名委員、加藤委員、伊田委員、山根委員、美船委員、岡野委員、吉長委員 〈欠席委員〉 北村委員、栗原委員	
	所管部課名	医療保険課
公開非公開の別	公 開	
【会議の概要】 1 開 会 2 委嘱状交付 任期満了により全委員改選。新任5名、再任11名の合計16名の委員を委嘱。 (任期：平成26年7月25日～平成28年7月24日) 3 委員の紹介 4 市長あいさつ [石田市長] 国保制度は、日本が世界に冠たる国民皆保険を下支えする制度であり、なくてはならない制度として国民の皆さまの健康、安全安心に大きく寄与してきた。 しかし、構造的に加入者に低所得者が多いこともあり、常に財政運営に大きな問題を抱えている。保険料も順次引き上げてきているが、この制度をどのように運営していくかが今大きなテーマになっている。 国家的課題の一つである社会保障と税の一体改革の中でも、国保の問題は大きな焦点になっている。その方策の一つが、今まで市町村が保険者だったのを都道府県にするという検討が今なされているが、まだ具体的な方向が定まっていない。もう少し紆余曲折があるかも知れないが、基本的な方向は都道府県化と示されているので、それに向けて準備を整えることが必要であると思っている。 そこでも一番焦点になるのは保険料の問題である。鳥取県内でも市町村ごとに格差があり、この格差をどう調整して一本化していくのか、あるいは差別化をするのか、今後十分すり合わせをする必要がある。		

医療の提供と保険料とはリンクするので、医療資源の少ないところは保険料が安く、医療資源の多いところは保険料が高くなる傾向にあることや、他の医療保険の中での国保の位置づけ等も含め、これから十分検討していく必要がある。

この倉吉市の協議会としては、今年度財政運営の見直しを行うことにしており、前回平成23年度に保険料率を見直して、24年度から3年運営をしてきた。次の27年度からの保険財政をどういうふうに行っていくのか、端的に言えば保険料をどう設定していくのかというのが今年の大きなテーマになる。皆さん方から色々ご意見を頂き、方向性を取りまとめていきたい。十分説明させていただき、ご理解を頂きながら議論を進めたい。

これからの2年間お世話になりますが、よろしく願い申し上げたい。

～ 市長退席 ～

5 会長及び会長代理の選出

会長に岡野勝義委員（公益代表）、会長代理に伊田充雄委員（公益代表）を選出。

6 会長あいさつ [岡野会長]

さきほど市長から話があったとおり、今年は保険料の見直しで、重要な会議になると思う。この会がスムーズに進行するようご協力をお願いしたいので、よろしく願いしたい。

7 議事録署名委員の決定

[会長が指名] 廣戸 直登委員、松田 隆委員

8 報告事項

- (1) 倉吉市国保事業概要について
- (2) 平成25年度国保事業決算について
- (3) 平成26年度国保事業について

[事務局] 会議資料に基づき説明

【質疑】

[委員] 療養費が増加しているが、針灸マッサージの伸びはどうか。

[事務局] 調べて後日回答する。（⇒※調べたところ、針灸マッサージの費用はなかった。）

[委員] 特定健診の受診率が下がったということだが、年代別の受診率はどうなっているか。今年度、40歳が無料券の交付対象となったとのことだが、そこが向上したのか効果を検証して欲しい。

[委員] 関連して、特定健診の受診率が県内で最下位とのことだが、その原因をどう分析しているのか。また、上北条、灘手、関金の3地区で受診率が高いが、その背景は。

[事務局] 年代別の受診率、無料券の効果については今後検証したい。

受診率の高い3地区は過去に重点地区として受診対策が実施され、その時からずっと受診率が高い。ただ、1度も受診されていない方の割合も高い。

集団健診の回数を増やすなどがん検診も含めて色々工夫しているが、受診率の向上につながっていない。今後、他市町村の取り組みなども参考にしたい。

〔委員〕健診だけが健康対策ではないと思うが、食生活や健康寿命を延ばすために何か取り組んでいるのか。

〔事務局〕関金温泉を活用した湯中運動などの健康教室や、食生活改善の地区活動への支援なども行っている。

〔委員〕受診率の高い地区は医療費が低いのか。健診だけでなく、健康な人を増やす取り組みをして欲しい。受診率のことばかり言われているように感じる。

〔事務局〕がんや人工透析になられた場合、医療費が高額になるということもあるが、その方やご家族が苦しい思いをされる。なるべく早期発見、早期治療につなげたい。今後、健診結果の異常を放置されたり治療を中断しておられる方についての対策をしていきたい。

〔委員〕受診率と医療費との関係はどうか。相関性がなければ受診率を高める必要はない。健康寿命を延ばす取り組みをしっかりとしていけば医療費は上がらないのでは。

〔事務局〕受診率と医療費の相関関係は今後調べてみたい。ただ、やはり住民の方の健康に対する意識の問題ではないかと思っている。

〔委員〕保健センターから説明があった健康対策の計画で、モデル地区はもう選定されているのか。

〔事務局〕これから依頼をする予定。

〔委員〕対象は何地区予定しているのか。

〔事務局〕自治公を2か所予定している。

〔委員〕鳥大医学部の尾崎教授が倉吉市の医療費等の分析をされたとのことだが、どんな特徴があったのか紹介して欲しい。

また、保険料率については全国的に資産割をなくす方向にあるが、倉吉市の方針は。

〔事務局〕資産割をなくしたい気持ちはあるが、鳥取県内では全市町村で資産割を導入しており、今後検討したい。

尾崎教授の分析については、8月5日に講演会を開いて説明を受ける予定にしている。

〔委員〕関係機関には講演会の案内がしてあるのか。

〔事務局〕案内を差し上げている。委員の皆さんもご都合がつけば出席をお願いしたい。

〔委員〕健康対策に3年間取り組まれるとのことだが、尾崎教授とも相談していただき、受診率と医療費の関係の検証をお願いしたい。

〔委員〕29年度に国保運営が都道府県化されるとのことだが、倉吉の国保財政はこのままでいけると考えておられるのか。

〔事務局〕料率の検討とあわせてそこも検討して頂きたいが、今のところ国保財政は安定的に推移している。

〔委員〕倉吉の所得割の率は、県内では平均的なところなのか。都道府県化で極端に上がったたりしない方がいいと思うが。

〔事務局〕医療・介護・支援分でそれぞれ率が高いところや低いところがあって一概には言えないが、1人当たりの調定額が県内で一番低い智頭町は平等割・均等割が低く設定してある。倉吉市の保険料は県内で平均的なところにある。次回には試算もお示ししたい。

9 その他

〔事務局〕次回 第2回国保運営協議会について

日時 平成26年8月21日（木）

午後1時30分より

場所 倉吉市役所 大会議室

10 閉会